# 前身の事業と従業員を引き継いで
# 衣料品の検品と加工でアパレル業界を支える

## 株式会社 サンロジ

東京都江東区森下３丁目 12-5 丸八倉庫１階

衣料品の検品とプレスなどの加工事業でアパレル業界を支える『サンロジ』。前身の業務縮小による事業部閉鎖を受け、事業と従業員を引き継ぐかたちで 2023 年６月に設立された企業だ。本日は山中慎介氏が、同社の中島社長にインタビューを行った。

代表取締役
**中島 憲治**

interview

interviewer
**山中 慎介**

**――はじめに中島社長の歩みからお聞かせ下さい。**

当社は衣料品の検品と加工業務を手掛けていますが、私の父親もその中のプレス加工、つまりアイロンの職人です。勤めから自営になり、私も学校を卒業してから家業を手伝っていたのですが、親子で一緒に仕事をすると難しいことも多くて。それで 20 代半ばで同業他社に移り、30 代で当社の前身の会社でアルバイトをするようになりました。

**――では、アルバイトから社員に登用されたと。**

はい。前職は新潟が本社で、こちらは東京事業部でした。兄が新潟、弟が東京ということで兄弟で事業を運営されていたんです。私は東京事業部の責任者である弟さんからお声がけいただいて社員として勤めるようになり、今一緒に仕事をしている鈴木副社長が後から入社してきました。その後、兄弟間で色々と話し合いがあって弟さんが辞めることになり、鈴木が事業部長、私が工場長として東京事業部を守ることになったんです。

**――それは何年ぐらい前のことで？**

10 年ほど前ですね。そこから二人三脚でやってきたのですが、コロナの影響もあって事業を縮小することになり、東京事業部が閉鎖されることになったんです。それが 2023 年の３月のことでした。従業員は全員解雇になるという厳しい局面でしたが、お客様からは「続けてほしい」というお声をいただきましてね。当時はお客様だった野村専務に相談させていただき、私と鈴木との３人で事業を引き継ごうということになりました。そして３カ月の準備期間を経て、2023 年６月に『サンロジ』を設立した次第です。

**――お客様から続けてほしいという声があったということは、それだけ良いお仕事をされていたということですね。**

ええ。手前味噌ですが、クオリティが高いということで評価をいただいていました。それに、検品はともかくプレス作業は職人の高齢化で、手掛けている会社もどんどん減っているんです。

**――こちらは貴重な存在なのですね。しかし、いざ事業を引き継ぐとなると不安はありませんでしたか。**

もちろん不安でした。けれども鈴木と野村という心強い存在があったので決断することができたのです。それに、これまで頑張ってくれた従業員たちを見捨てるわけにもいきませんから。コロナ前は 30 名ぐらいでしたが、今は 15 名です。前身があるとはいえ、会社としては新規なので銀行の融資も受けられず、最初は苦労しましたね。そんな中でたくさんのお客様に支えていただき、１年半経った今では融資も受けることができて、事業も安定してきました。

**――最後にこれからの夢や目標をお聞かせください。**

この３年で盤石な基盤を築き、５年で大きく広げていけたらと思っています。先ほども申しましたように職人不足が課題なので、担い手を育成していきたいです。また、異業種にも挑戦したいですね。そうして事業を大きくしながら、これまで私共に関わってくれた方々にご恩返しができればと思っています。

（2025 年１月取材）

「中島社長、鈴木副社長、野村専務という三本の矢で前身の事業を引き継ぎ、さらなる発展へと導いいらっしゃるとのこと。経営者は孤独だと言われますが、社長にとっては副社長と専務の存在が心強いですね！」　山中 慎介・談